琉球病院 Monthly

独立行政法人
国立病院機構　琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.59
2017. November

発行者　琉球病院事務部長
有岡　雅之

基本理念　この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

「アルコール関連問題研修会」を開催して

精神科医師　栗原　雄大

平成 29 年 10 月 20 日にアルコール関連問題研修会を開催しました。

研修内容としては、アルコール依存症の概要、当院でのアルコール相談の実態、アルコールリハビリテーションプログラム(ARP)や家族支援(CRAFT)などを、当院の医師、看護師、ケースワーカーが発表を行いました。

また、昨年まで琉球病院でアルコール依存症治療を長らく行っていた佐賀県医療センター好生館の福田貴博先生に「節酒指導」に関して講演をしていただきました。

「節酒指導」に関しては、約３時間と比較的長時間でしたが、ロールプレイを交えながら、県内のアルコール問題の実情や保健師の視点に立って考え抜かれた講義であり、とても充実感がありました。

また、最後の意見交換の場では、保健所の方々より様々なケースの相談があり、それらの内容をもとに、小グループでディスカッションを行いました。その後、話し合った内容を発表して頂きましたが、どれも的確な的を射た意見であり、日々切磋琢磨して仕事に取り組まれていることが感じられました。

アルコール治療に関しては、教科書的な知識を学ぶだけでなく、患者、家族、支援者の実際のニーズに合わせた支援のあり方が求められております。そのためには、この様な研修を通し、顔の見える関係を構築し、互いに意見交換を行えることが重要だと考えております。

この度は、参加者の方々、また今回の研修に協力して頂いた病院職員の方々、ありがとうございました

トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替　進捗状況　本体工事：新病棟（第１期工事）完成 ・・・・・・・・・ 平成27年7月
- 整備の動き　雨水配水管盛替工事　完成予定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 平成29年2月
  - 新病棟（第２期工事）　完成予定 ・・・・・・・・・・・・・・・ 平成30年10月

教育・研修

- ダンスパーティー　日時：平成29年12月7日(木)13:30 ～ 15:00
  - 場所：あしびなあ体育館

地域医療連携室だより

当院には現在、「動く重症心身障がい病棟」が 80 床ございます。現在、同一敷地内に新病棟を建設中で、H30 年４月には新病棟へ引っ越す予定です。新病棟開設時には１０床増床し、９０床でのスタート予定となっております。これまでに入所以外にも、たくさんのショートステイのご相談をお受けしておりましたが、なかなか受け入れをすることができない状況が続いておりました。新病棟開棟後はショートステイ専用のベッドも設置予定となっておりますので、是非、ご利用いただけたらと思います。「動く重症心身障がい病棟」には担当の精神保健福祉士がおりますので、何か疑問な点やご不明な点がございましたら、お気軽に「地域医療連携室」までお声かけ下さい。

空床状況

精神科病棟	認知症	アルコール	児童思春期ユニット
00床	01床	05床	03床

11月2日現在

※ 入院予約に関するお問い合せは地域医療連携室へご相談下さい。

院　長

福治康秀(ふくじ　やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。

診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- 物忘れ外来
- アルコール依存症等外来

病床数 406床

精神科病棟	181床
認知症	50床
アルコール	54床
児童思春期ユニット	4床
重症心身障がい	80床
医療観察法	37床

那覇市からのアクセス

●アクセス
路線バス／那覇BS（下り）または名護BS（上り）より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分
自 動 車／那覇市から40分
沖縄自動車道道金武インターから名護向け5分

NHO PRESS～国立病院機構通信～について

お問い合わせ時間
8:30～17:15（土・日・祝日以外）
TEL：098－968－2133（代）
内線：231・234
地域医療連携室(直通)
TEL：098－968－3550
FAX：098－968－7370

治療抵抗性精神疾患への医療

クロザピンの治療状況

平成22年から治療抵抗性統合失調症の患者様に対してクロザピン(CLZ)治療を開始し、全症例は217例になりました。平成29年9月のCLZ導入は2例で、2例とも他の病院からご紹介の患者様でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離は解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT（修正型電気けいれん療法）の治療状況

当院では、m-ECT(修正型電気けいれん療法)による治療を行っております。平成29年9月の治療実績はありませんでした。

こども心療科

こども心療科では、年齢や発達課題に応じた集団プログラムを実施しています。今回はその中から、小学生を対象にしたグループを紹介します。

このグループでは、主に自閉スペクトラム症の特性を持った子どもを対象に月1回、注意集中や対人関係での工夫等、日常生活を円滑に送るために必要となる力の向上を目指した様々な活動やワークに取り組んでいます。満足度は高く、参加者のほとんどが休むことなく参加しています。

今後も子どもたちが楽しく活動に取り組めるよう、工夫しながら進めていきたいと考えています。グループに関するお問い合わせは、子ども心療科までお願いいたします。

認知症医療　●家族会のお知らせ●

ご家族に認知症の患者様がおられる方を対象とした、「認知症患者家族会」を平成28年1月から毎月第4木曜日、時間は午後2時から3時の1時間で開催しています。

内容は、認知症に対する基本的な知識を深める勉強会となります。認知症の理解や認知症患者とのかかわり方、生活上の工夫など、毎回違ったテーマで行なっています。また、認知症患者を身内に持つ家族同士の交流を深める場になればと考えています。家族会を通して、認知症の身内を抱えていても、自分の生活を犠牲にすることなく、家族全員が充実感を持って1人ひとり自分の人生を生きていける術を身につけてもらえたらと思います。家族会終了後も質問や相談がある方には認知症専門スタッフが対応しますのでお気軽に参加してください。

重症心身障がい医療

利用者の皆さんへ楽しんで頂けるよう、院外へ外出する機会を設けています。今回は院外活動第3班(ビオスの丘)の様　子をご紹介します。天候に恵まれ、マイクロバスに乗り込み出発しました。ビオスの丘では湖水鑑賞船に乗ることができ、乗務員さんの進行のもと、沖縄の自然や沖縄に住んでいる生き物の生態系も学ぶことが出来ました。昼食はシーサイドドライブインの千円ワンプレートをみんなで美味しく頂きました。ご家族ともゆっくり過ごす事ができ、楽しんでもらえたと思います。今後も利用者の皆さんが楽しめそうな場所を探し、外出を楽しんでもらえたらと思います。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では9月末現在、外来通院の患者様66　名、入院中の患者様30　名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。また、当院の外来での調査では、レグテクト内服を継続している患者様の方が、治療継続率が高いという結果も出ております。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療（ACT）

10月に台風が立て続けに沖縄へ接近し、実りの秋を直撃しています。訪問看護利用者様へは、食料等の事前の備えで危険を回避することの声かけをしております。訪問看護での10月のトピックスとして、平成25年に初回訪問の利用者様で、訪問当初は引きこもりで会話が無く、視線も合わせてもらえない状況でした。行動の拡大や生活能力の向上を目標に、トランプゲームを計画し一緒に行ったり訪問車まで同行し見送って貰う事など、利用者様に合わせての訪問看護を展開していきました。なんと、今月には、1人で路線バスを利用し外来受診に来ていました。訪問看護スタッフ全員が、利用者様の変化に感動の瞬間でした。

臨床研究部活動状況

『熊本地震DPAT隊員へのアンケート分析』　副院長　大鶴卓

熊本地震で活動した全国のDPAT隊員（42自治体1018名）を対象とし、①基本属性、②災害関連の経験、③熊本地震への派遣について、④DPATや災害医療に関する認識についての確認などの項目で構成された調査票を用いてアンケート調査を行いました。今回はその①②の結果をご報告いたします。回収率は79.3%で、アンケート回答者の職種は、医師26%、看護師35%、業務調整員39%でした。業務調整員の職種は精神保健福祉士37%、事務職員35%であり、業務調整員はこの2職種で7割強を占めていた。派遣元機関種別は、民間13%、国立病院機構10%、精神保健福祉センターと大学がそれぞれ9%であり、多様な精神科関連の期間元おり派遣されていました。熊本地震の活動期間は、発災～1週間が13%、1週間～1ヶ月が43%、1ヶ月以降が44%であした。熊本地震の活動場所は、調整本部12%、活動拠点本部17%、病院6%、避難所62%でした。

厚生労働科学研究費　「災害派精神医療チーム（DPAT）の機能強化に関する研究」分担研究報告書より一部抜粋

〒904－1201　沖縄県国頭郡金武町金武7958－1　代表電話　098－968－2133　地域医療連携室(直通)　ＴＥＬ　098－968－3550
http://www.hosp.go.jp/～ryukyu1/　ＦＡＸ　098－968－2679　ＦＡＸ　098－968－7370